

<p>01_文学部</p>	<p>専任教員によるスタッフ会議を専攻・部門ごとに頻繁に開催し、人材育成の方針、教育の内容や方法について情報共有を図った。</p> <p>図書館・情報学専攻では独自に専攻の要覧も作成・配布し、専攻での学びの概要を学生に理解させるよう努めた。</p> <p>民族学考古学専攻、英米文学専攻、図書館・情報学専攻などでは、卒論中間発表会や卒論発表会(口頭試問)を年来専攻として開催、教員間で人材育成の方針、教育の内容・方法、成績の評価基準を共有する機会ともした。</p> <p>語学専任者会議を開催し、必修語学に携わる専任教員は語種を超えて授業の進め方を共有するとともに、語種間で1クラス当たりの学生数に不平等が生じないように必要に応じてコマ数の調整を図った。</p> <p>民族学考古学専攻では、実習系科目を専任教員5名のうち4名が担当する中、教育内容の充実と教育方法の向上を図った。</p> <p>英米文学専攻では、専任教員の教育上の連携を意識し、専攻HP上に教員によるリレーエッセイを掲載した。</p> <p>美学美術史学専攻、人間科学専攻では、オンライン講義が課せられる状況下、オンデマンド教材の作成法等について専攻独自にマニュアルを作成・共有した。国文学専攻でも教員間でオンデマンド教材を確認し合うなどの取り組みを行った。</p> <p>着任直後から円滑に教育・研究を進められるよう新任教員を対象に、学則及び学部細則等確認する機会をもった。</p> <p>次年度から学部として授業アンケートを実施することを決定し、その設問内容について協議・策定した。</p> <p>岩波敦子常任理事を講師とするFD講演会を社会学研究科・文学研究科と共催した。</p>
<p>01_文学研究科</p>	<p>各専攻・分野レベルで、全構成教員が参加するスタッフ会議を定期開催し、研究指導法の更新を常態的に図った。また、大学院生の研究水準を専攻・分野全体で向上させるべく、合同/共同ゼミや修論・博論発表会を開催した。コロナ禍対策として開催したオンラインでの研究発表会に、多くの課程修了者や専門研究者も参会、大学院教育の成果に対して外部評価を受ける機会ともなった。</p> <p>社会人を対象とする図書館・情報学専攻情報資源管理分野では、外部有識者によるアドバイザリコミッティの評価委員会を、9月に開催し、人材育成の目的に沿ったカリキュラム、教育・指導体制であるかの評価を受けた。委員会には専任教員全員が出席し、それぞれの授業内容についての報告も行った。また修了生に対して受講の効果、満足度などに関するアンケート調査を実施、その結果は外部に公開した。</p> <p>文学研究科委員が主体となる塾内学会(三田哲学会、三田史学会、慶應義塾大学藝文学会、三田図書館・情報学会)は、各々の研究大会や公開シンポジウムの企画・運営を通して、隣接専攻・分野間の研究水準を相互に確認し、指導法に関する知見を交換する機会となっている。</p> <p>次年度開館予定の慶應義塾ミュージアム・コモンズを通じた連携を図られた。文献史料、絵画、物質文化資料の展示を通し、領域を超えた研究指導の枠組み構築を念頭に置き、開館に先立ち『人間交際』と題してアート・センター、文学部古文書室、附属研究所斯道文庫、福澤研究センター、美学美術史学専攻、民族学考古学専攻、三田メディアセンターの資料群がウェブ上に展示された。</p> <p>文学研究科FD委員会を2020年10月に設置した。今後は特にウェブサイトを通して多様なFD活動の周知を図っていく。その手始めとして修論作成のプロセスを図化し、サイトに掲載した。高度な大学院教育を担う教員には、科研費等の競争的研究資金を積極的に獲得し、院生に調査・研究機会を与えることも求められる。そこで、同資金獲得を奨励すべく、サイトには2005年度以降の科研費採択課題を公開した。秋学期終了後には、コロナ禍におけるオンライン授業による学習や研究に関するアンケート調査を実施した。博士論文提出に関する内規の整備に着手した。</p> <p>岩波敦子常任理事を講師とするFD講演会を社会学研究科・文学部と共催した。</p>
<p>02_経済学部・ 経済学研究科</p>	<p>■オンライン教育に関するFDの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部日吉オンライン授業ワーキンググループ 経済学部の日吉キャンパス所属教員10名で、オンライン授業について検討するワーキンググループを立ち上げ、2020年3月末に第1回会合を開いた。同ワーキンググループには、外国語科目、総合教育科目、実験を含む自然科学科目を担当する教員が参加しており、メーリングリスト等を通じて情報共有・意見交換を進め、他の教員からの相談や問い合わせに応じる窓口としての機能も担っている。 ・部会(語種)単位でのオンライン授業に係るFDの取り組み 外国語の授業を対面からオンラインに移行することは、講義科目以上に難しい面がある。特に語学部門では、非常勤講師の割合が大きく、また機器の扱いに慣れていない教員が少なくなかった。そのため、各語種の単位で、独自のマニュアル作成、オンライン授業のモデルプランの提示、専任・非常勤講師両方を対象とするワークショップの開催などを行い、困難を抱える教員のサポートに取り組んだ。 ・オンライン教育についてのフォーラム(掲示板) 2020年4月に緊急事態宣言が発出され、諸大学と同じく、慶應義塾大学でもオンラインによる授業を継続せざるをえなくなった。これを機会に、全員ではないが、かなりの数の教員をまきこんだオンライン教育についてのフォーラムが持たれた。2020年4月4日に設置された管理者4名による掲示板がそれである。参加人数は、三田キャンパスの所属の教員が50人、日吉キャンパス所属の教員が11人。このように日吉、三田の教員いずれも含んでいる。フォーラムで議論された話題は多岐に及んでおり、オンライン教育にかかわるかなり技術的な論点から、オンライン教員が及ぼす影響、学生の視聴環境についての議論などに関して、たちいった議論が展開されている。教員には欧米の大学での教育経験がある者が少なからずおり、オンライン教育で先行する大学のノウハウが伝えられている。 <p>■PEARLにおける授業アンケートの実施 かねてから、経済学部PEARL科目の担当者には、各授業について学生からの匿名による授業アンケートを行うよう求めている。</p>

	<p>学生からのコメントはPEARL委員会で集計し、担当者に周知している。全授業ではないが、かなりの数のコメントが寄せられている。その内容は、授業のやり方、コンテンツから、教員個人の英語力にまで及び、授業の改善に役立てられている。</p> <p>■経済研究所が主催するソフトウェア講習会 2014年の開所以来、経済研究所によってPython、SPSS-AMOS、z-Tree・oTree、SASなど実証分析のための講習会を必要に応じて毎年2回から4回行っている。</p>
03_法学部・法学研究科	<p>法学部・法学研究科FDの具体的な取り組み</p> <p>(1) 2020年度「学生による授業評価アンケート」を実施した。アンケート用紙を教室で配付することができないため、keio.jp「授業支援」の「アンケート」機能を用いて実施した。担当者の所見が付された集計結果は、ウェブ上で公開される。</p> <p>(2) 法務研究科と法学部の教員間で、教育方法や内容についての緊密な連携を図る趣旨で「連絡協議会」を設置し、ほぼ2カ月に一度の割合で開催した。</p> <p>(3) 2020年2月20日、教授会前の時間を利用し、外部講師を招き、専任教職員を対象として「大学における性加害を考える」と題する講演会を開催した。</p> <p>(4) 2020年3月末、法学部教員有志からなる「法学部授業オンライン化タスクフォース」が、オンライン授業実施のための教材の作成方法、必要なソフトウェア・機材、授業において何をいかに提供するかなどについてのノウハウをまとめた「授業オンライン化基礎資料」を作成し、法学部（法学研究科を含む）の全教員の参考に供した（なお同資料は、日吉ITCのウェブサイトにもアップされ、各学部の教員の参照するところとなった）。</p> <p>(5) 日吉キャンパスでは、学習指導および各部会・部門の代表者を対象に、遠隔授業に関する講習会をITCに依頼して、3月24日と3月27日に2度行った。また、秋学期開始前の9月25日に、一部対面授業再開に備えて、教室からの授業配信などについて講習会を開催した。外国語担当者8名が参加し、学生部担当者より配信機器の説明を受けた後、感染防止に留意しながらの授業運営について意見交換を行った。</p> <p>(6) 2021年1月26日、日吉設置科目のオンライン授業およびハイブリッド授業を通じて得られた経験と授業のノウハウを共有するためのオンライン座談会を開催した。日吉・三田合わせて約30名の参加者があった。この座談会の内容は「法学部日吉キャンパスにおけるオンライン教育」と題する報告書にまとめられ、日吉専任教員および非常勤講師の参考に供した。</p> <p>(7) 2021年3月中旬から下旬にかけて、男女平等について考える材料を提供するため、アメリカ大使館広報部の協力のもとにオンライン映画上映会を行った。上映されたのは、Sharon Rowen 監督のドキュメンタリー映画“Balancing the Scales”（邦題：法の世界の男女平等）であった。法学部、法学研究科、法務研究科の専任教員および学生のうち、先着登録者500名が視聴できるようにした。</p>
04_商学部・商学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・商学部教育メディア賞を設置し、教員が教育上の工夫をする動機づけを行っている。 ・商学部のOBにアンケート調査を実施し、『卒業生アンケート調査報告書』を作成した（2015年12月作成）。 ・授業評価アンケートを行い、次年度の改善につなげている授業科目もある。
05_医学部	<p>4年前から体系だったFDを実施している。2020年度からは、すべての教員に、年4回のうち2回の受講義務を課した。また、FD入門は、在任中に1回は受けるべき概論FDとして毎年実施している。2020年度から、すべてオンラインで実施し、そのアーカイブを提供することで、忙しい教員の便宜をはかっている。参考までに、2020年度のFDは、「オンライン教育の技法」「試験問題の作り方と評価」「教育の泉源：ミッションとアウトカム」「教育事例の紹介」を実施した。</p>
05_医学研究科	<p>研究科委員のほとんどが医学部教員であるため、医学部の教員FDにて教育能力の向上を行っている。それに加え、医学研究科独自のFDとして、毎月定例研究科委員会にて、毎月委員1名の研究内容を発表し、お互いの研究内容を理解し、視野を広げている。</p>
06_理工学部・理工学研究科	<p>理工学部・理工学研究科における主なFD活動は、ほとんどすべての授業科目を対象に毎学期実施している授業アンケートに基づいて実施されている。この授業アンケートは、2006・2007年度に試行され、2008年度より現在の形になり、インターネット上のシステムとして稼働している。学生はkeio.jpにログインしてからアンケートに答えることになるが、だれがどのような回答をしたか教員側に分からないようになっている。アンケートの内容は、授業の内容や教授方法に関して4段階で評価する項目と授業の良い点、改善すべき点等を自由記述で回答する項目からなる。授業担当者は、質問項目を追加することも可能である。アンケートの結果に対して教員はコメントを回答し、このことで次年度の授業に向けた自己改善を図っている。アンケート結果およびコメントは学生に公開され、次年度の履修科目を決定するさいの参考資料としても活用している。</p> <p>一方、組織的取り組みとしては、アンケート結果を学科・専修・部会単位で検討して授業担当者に対してフィードバックを行うとともに、一年に一度、活動状況報告書を作成している。さらに、数名の委員によるFD委員会を学期ごとに開催し、全体スケジュール、システム改良の検討、質問項目の精査などを定期的に行っている。また、アンケート結果を解析し、理解度や有意義さなどの数値が高い授業を、日吉・矢上地区それぞれより選出し、その科目名と授業担当者を教授会にて発表することによって、高い評価を受けた授業の教授法等について学部全体で情報共有をしている。</p>
07_総合政策学部・環境情報学部／政策・メディア研究科	<p>【1】英語授業のトレーニングの実施 2011年秋季より環境情報学部、2015年秋季から総合政策学部において開始したGIGAプログラムへの入学者数の増加や、大学院生も含めたSFC全体の留学生数も年々増加しており、英語で提供される授業へのニーズと期待はますます高まっている。これを背景として、SFCではFDの一環として、2014年度から教員向け英語による授業運営に関するトレーニングを実施しており、これまで延べ約150名の教員が受講しており、概ね高評価を得ている。以下の3種類を実施している。</p> <p>(1) 基礎トレーニング「オンラインレッスン」 ・e-learning（4技能のトレーニング） ・ネイティブスピーカーとのオンラインレッスン（25分×12回分） *ベルリッツが提供しているパッケージプラン「Cyber Teachers × Telephone Lessons」を活用。フランス企業で外国語としての英語を習得するために開発されたプログラムで、全世界で外資系企業を中心に導入実績がある。</p> <p>(2) 実践トレーニング「実際に英語で行われた授業に対するアドバイス」</p>

	<p>各学期に英語で開講される授業（GIGA科目）の20～30分間を録画し、外部専門家（バルリツ所属の英語ネイティブ講師）がフィードバックシート（および希望者には後日面接）にてアドバイスを行う。</p> <p>（3）「Oxford EMIトレーニング」 例年ICUのキャンパスにおいて5日間連続で開催される「Oxford EMIトレーニング」へ、SFCが参加費を持ち、数名の教員に参加してもらっている。これは、オックスフォード大学とブリティッシュ・カウンシルが共同で開発した英語を母語としない大学教員向けの英語による授業に関するトレーニングコースで、英語そのものではなく、英語による教授法、授業運営をブラッシュアップすることを目的としたものである。</p> <p>【2】授業調査の実施 各学期に2回（学期はじめおよび学期終わり）、授業調査を実施している。教育環境・内容の改善を目指すもので、全学生・全教員が自分がかかわった全ての授業を振り返り、教員と学生の相互のフィードバックを行うとともに、今後の履修者への情報提供を行うことを目的としている。</p> <p>【3】オンライン授業各種サポート（Webページ作成、セミナー実施） 新型コロナウイルス対応のため、2020年度は急遽全面的にオンライン授業を実施する必要が生じた。大半の教員にとって全く未知の世界であったため、有志教員がオンライン授業のためのサポートを行った。できるだけ創意工夫をこらした授業を実施できるよう、様々な形で情報提供を行った。具体的には、「オンライン授業サポートページ」を立ち上げ、オンライン授業に関するノウハウ、FAQ等を集約して公開した。また、オンライン授業実施に関するオンラインセミナーを春学期授業開始前に11回（うち3回は英語で実施）、秋学期授業開始前に4回実施した。</p> <p>【4】アゴラ（シン・アゴラ）の開催 アゴラはSFC教職員間の「知の対話」の場で、SFCにおける研究と教育のあり方などについて、キャンパス開設前から今日まで、頻繁に開催し議論を重ねている。着任時期や年齢やステータスに関係なく、全員が同僚たちとともに率直に意見を言い合うことがアゴラの趣旨である。2019年12月からは、よりキャンパス内のコラボレーションを推進できるよう、アゴラを改革し新たに「シン・アゴラ」としてスタートしている。 2020年度に実施した3回では、歴史上類を見ない新局面の事態に、SFCとしてどのような挑戦が可能だったか、どのような困難があったのか、そしてどのように問題解決へと導いたのか、ということを教職員で共有し、学びの共同体としてのSFCの役割と意味を考え直す機会とした。 「オンライン授業の教員・学生へのアンケート結果の報告」 「オンライン授業下における心と体」 「オンライン授業普及元年 — 言語コミュニケーション科目からの報告／鼎談：今後のオンライン授業の展望」</p>
<p>08_看護医療学部</p>	<p>学部に所属する全教員を対象に年2回の集団でのFD研修を実施している。その活動内容については、学部ウェブサイト内にある教員用ページの中に記録している。また、各学期に授業調査を実施している。以下、FD研修と授業調査の概要である。</p> <p>【FD研修会】 集団でのFD研修を年2回実施している。1回は研究倫理に関する内容、1回は教育研究能力の向上を意図した内容で実施している。 <2020年度実績> *感染症予防対策のため、オンデマンド配信で実施 2020年4月テーマ：「研究倫理と倫理申請」 2020年10月テーマ：「2020年度秋学期に向けて」*FD委員会・ITメディア関連委員会共催</p> <p>【授業調査】 各学期の終了時に授業調査を実施している。教育の改善を目指すものであり、学生からのフィードバックを受け、教員がそれに答える形で実施している。授業を振り返り、今後の改善を考える機会となっている。</p>
<p>08_健康マネジメント研究科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価 ・APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN） ・FDセミナー「不正アクセス2020の現場から」（2021年3月17日、オンライン） ・シンポジウム等への参加（任意） 2019年11月6日「Well-beingと行動科学」（健康行動科学特別講演会）於・信濃町孝養舎 2020年8月18日「慶應スポーツSDGsシンポジウム2020」於・オンライン ・その他（コロナ対応） 2019年度、2020年度については、新型コロナウイルス感染症対策のため、湘南藤沢キャンパス主催のWebex利用に関するセミナー（対面方式、オンライン方式）への参加、医学部作成の資料の共有、オンライン授業準備のためのマニュアル等の共有他、授業の質を担保するための多様な取り組みを実施した。
<p>09_薬学部・薬学研究科</p>	<p>教員は講演会、研修会に原則全員参加となっている。また、薬学部の関連部署の職員も参加している。FDの開催記録および資料は、全教職員が閲覧できるサーバに置いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座学に加えて教員間でのグループワークの活用（研究倫理や薬学教育のカリキュラム改定などに関するFD） ・授業アンケート 通常毎学期全科目実施（2020年度は遠隔授業に関するアンケートのみ）。全教員に結果開示されている。 ・医療系三学部（医学部、看護医療学部、薬学部）での多職種連携合同教育の実施に合わせて教員同士の連携、認識の共有などを目的に、FDを年1回実施。実施報告は、医療系三学部合同教育のウェブサイト（http://ipe.keio.ac.jp/index.html）にて公開。 <p>【2019年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ FD講演会「障害者差別解消法と合理的配慮について」 ① 実施日：2019年6月24日（月）13：00～13：50 ② 内容 挨拶：協生環境推進室事務長 黒田 絵里香 氏 「協生環境推進室について」

	<p>講演 1：港区役所 障害者福祉課障害者福祉係長 島田 晶 氏 港区生涯学習出前講座「障害者差別解消法について」</p> <p>講演 2：協生環境推進室コーディネーター 賀屋 祥子 氏、大岡 真希子 氏 「大学における合理的配慮の例」</p> <p>・終了時、港区生涯学習出前講座および協生環境推進室からのアンケートをそれぞれ実施した。</p> <p>【2020 年度】</p> <p>■ 第 1 回 FD 研修会「授業実施に関わる著作権等の考え方」</p> <p>① 実施日：2020 年 7 月 30 日（木）13：00～14：00</p> <p>② 内容 講演：石川さと子准教授（薬学部カリキュラム委員会副委員長/薬学教育研究センター） 「授業実施に関わる著作権等の考え方」</p> <p>③ 参加方法：会場で直接参加／遠隔で参加／録画を視聴</p> <p>・終了時または視聴後、ミニクイズおよびアンケートを実施した。</p> <p>・FD に引き続き、希望者を対象に「遠隔授業実施に関する説明会」を実施した。</p> <p>■ 第 2 回 FD 講演会「令和時代の薬剤師の役割」</p> <p>① 実施日：2020 年 10 月 26 日（月）13：00～14：30</p> <p>② 内容 講演 1：厚生労働省 医薬・生活衛生局 薬事企画官 安川 孝志 氏 「コロナ禍の状況も踏まえた令和の時代の薬剤師・薬学教育に期待すること」</p> <p>講演 2：医薬品医療機器総合機構 ワクチン等審査部 審査専門員 三山 由美子 氏 「令和時代の薬剤師の養成」</p> <p>③ 参加方法：会場で直接参加／遠隔で参加／録画を視聴</p> <p>・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解を確認。</p> <p>【大学院 FD】（大学院教員対象）</p> <p>① 実施日：2021 年 1 月 25 日（月）13：00～14：00（含む質疑応答）</p> <p>② 内容 講演：国立情報学研究所 河合 将志 氏 「オープンアクセスの現状とプレプリントサーバー」</p> <p>③ 参加方法：遠隔で参加／録画を視聴</p> <p>・終了時または視聴後、アンケートを実施し理解を確認。</p>
<p>10_社会学研究科</p>	<p>1. 2019 年度</p> <p>1.1. 社会学研究科 FD 講演会の実施 2019 年 12 月 11 日 大岡真希子（協生環境推進室コーディネーター・学生相談室（三田）カウンセラー） 黒田絵里香（協生環境推進室） テーマ『多様な背景を持つ学生と出会うために』 12 月研究科委員会にて全委員の参加を求めている講演・質疑応答を行い、冊子として 2020 年に講演会資料を発行し塾内外の教職員のアクセスを可能にした。</p> <p>1.2. 留学生対応として、留学生懇談会の実施、社会学研究科による独自の助成として日本語チューターの事業化</p> <p>2. 2020 年度</p> <p>2.1. FD 講演会（オンラインにて近日公開予定） 岩波敦子（常任理事）・岡原正幸（研究科委員長）による対談形式 テーマ『協生する場としての慶應義塾』 コロナ禍で委員会がオンライン実施になっているので対面講演をやめ動画収録として実施。全塾に向けて配信する（大学 FD 委員会、文学部 FD 推進委員会、文学研究科 FD 委員会との共催）</p> <p>2.2. 社会学研究科 FD 委員会の設置 2020 年 10 月</p> <p>2.3. 「養成すべき人材・教員に求める能力」を明確にして新年度パンフレットに掲載</p> <p>2.4. 大学院生へのオンライン授業アンケートの実施、結果の公表 2020 年 11 月</p> <p>2.5. オンライン授業のためのオンライン・チューターを新設</p> <p>2.6. 非常勤講師へのオンライン授業助成</p> <p>2.7. 留学生対応として、日本語チューター事業、委員長とのオンライン懇談会、および 2021 年度から母国語としての中国語を授業言語とする基礎科目の設置</p> <p>2.8. 複数教員が共同で担当するプロジェクト科目を再設（教員相互の授業運営の向上に向けた取り組みとして）</p>
<p>11_経営管理研究科</p>	<p>経営管理研究科は、ケースメソッドという一種のアクティブラーニングを重視している。この講義は、学生が事前に渡されているビジネスに関するケース教材を読んでもらう。クラスにおいては、講師は、学生間の議論をファシリテートしつつ、必要な学術的、実務的な知識を伝える方式である。FD にあたっては、ケースメソッドの習熟を主要な目的としている。具体的には、下記のような取り組みをしている。ただし、コロナ禍で国際的な取り組みは限定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバード大学のビジネススクールが主催する Global Colloquium on Participant-Centered Learning というセミナーに経験年数の浅い教員を派遣した（2019 年度のみ）。 ・慶應ビジネススクールが実務家に向けて行う研修（高等経営学講座）がある。この研修に出講するベテラン教員が行うケース講義を他の教員も聴講した（2019 年度のみ）。 ・教員間で授業の相互参加などを行った（2019 年度、2020 年度）。
<p>12_システムデザイン・マネジメント研究科</p>	<p>FD 委員会を設置し、研究科が目指すコンセプトや未来像、望ましい教員・研究者人材、教育手法や教育システム・施設等のあり方を検討し、その課題を解決すべく、毎年複数回ほど専任教員全員で FD 活動を実施している。</p> <p>(1) 授業評価アンケートの実施</p>

	<p> Semesterごとに各授業に対する学生の理解度・満足度・改善点などを知るため、匿名回答のアンケート調査を行っている。用紙を授業で配布・回収するか、Google FormやQualtrics等を使ってオンラインで実施しており、各教員は結果を授業改善に活用している。</p> <p>(2) 教員間討議 2019年8月21日・2019年11月27日・2020年8月20日にFD（教員間討議）を実施し、今後5～10年のスパンで教育および研究に関してSDM研究科が目指すべき方向性について、専任教員間で共有をはかり、育成したいと考える多様性のある人材像を明確にした上で、そのための教育カリキュラムおよび修士および博士研究の指導の方針について検討した。また、今後数年間にわたり退職する専任教員に代わり採用すべき専任教員の人材像について検討した。</p> <p>(3) シンポジウムの実施 2020年2月4日に、SDM研究科の研究および教育をさらに発展させるためのシンポジウムを開催した。SDGsに関わる課題解決をテーマとしたシンポジウムとし、今後SDMとして取り組むべき課題を専任教員、学生、参加者らと共有することができた。</p> <p>(4) 授業形態のCOVID-19への対応 2020年7月22日に遠隔講義の手法に詳しい講師を招待し、オンライン授業を効果的に行う方法についての情報を提供してもらった。春学期に始めたZoomによるオンライン授業を含めた様々な意見交換があり、秋学期に向けた授業準備についての情報共有ができた。これにより、従来から行っていた授業の録画ならびにその研究科内での公開に加えて、9月に教室とZoomを使ったハイブリッド授業システムを整備し、活用するに至っている。</p> <p>(5) 研究・教育に関連するハラスメントについて学習 2021年1月13日に弁護士の矢田部菜穂子先生をお招きし、研究・教育に関連するハラスメントの留意点・判例等について、専任教員全員で学習した。</p>
<p>13_メディアデザイン研究科</p>	<p>1 教員全体でのFD活動 教員のpeer reviewによる教育の質向上を目的として、以下の5点について年2回実施している： イ) 学生授業評価を参考にして、全開講科目について全教員が確認する。課題がある場合には、改善点などを議論して次回の授業に反映させる。 ロ) 全教員のチームビルディングを通したリーダーシップ、戦略立案のメンタリングを行う。 ハ) 全教員で大学の未来像（社会のニーズ、人材育成、活動内容）を設計する。 ニ) 全教員で、次の時代に向けた教育のあり方の検討と戦略立案を行う。 ホ) 全教員で、次の時代に向けた教育方針に対応するカリキュラムの検討を行う。 また、小規模なカリキュラムの変更は毎回のFD活動で検討し、実施しているが、入学した学生の入学時のスキルセットや講義の取得状況等から、大規模なカリキュラム変更も数年毎に計画し、2008年度の研究科の創立以来、3回実施している。</p> <p>新任教員が開講する講義に関して、シニア教員のメンタリングを受けながら講義の目的や内容をまとめたシラバス案を作成し、教員会議やFD会合でカリキュラム全体との整合性を確認している。必要に応じて修正を依頼し、開講の準備をする。</p> <p>2 テニユアトラック教員のための個別FD活動 テニユアトラック制度に基づいて、テニユア審査までの期間、年度末に研究科委員長がテニユアトラック教員と個別面談を実施し、教育、研究、運営の貢献度を振り返り、次年度の活動方針を定めている。</p> <p>3 2019年度の活動実績 <u>全教員によるFD活動</u> 実施日：2019年8月22-23日 春学期授業の振り返りと改善点 カリキュラムのリデザイン 実施日：2020年2月20-21日 秋学期授業の振り返りと改善点 カリキュラムのリデザイン 大学の存在意義 KMDの2030年における姿</p> <p>4 2020年度の活動実績 <u>全教員によるFD活動</u> 実施日：2020年7月31日（Zoomによるオンライン会合） 春学期授業の振り返りと改善点 オンライン授業の工夫点の共有（best practices） 実施日：2021年2月18-19日（Zoomによるオンライン会合） スタンフォード大学名誉教授によるポストパンデミック社会における大学についての講義 ポストパンデミック社会におけるメディアデザイン研究科の役割の議論 秋学期授業の振り返りと改善点 博士論文審査過程の検討と改善等</p>
<p>14_法務研究科</p>	<p>(1) 「FD・授業評価委員会」として3名の教員が担当している。 (2) 年に一度、「FD研修講演会」を実施している。 (3) 毎年、春学期・秋学期のいずれかに、専任教員に他の教員の授業参観を義務づけている（非常勤教員は任意）。 各教員は、keio.jpを通じてあらかじめ他の教員に授業参観を申込み（参観対象の選択は自由）、参観後に意見（参考になった点、改善を要する点など）を提出し、被参観者はこれについて意見を述べる。 参観者・被参観者の相互の意見は、匿名で集約したうえ、研究科委員会で共有し、各教員の授業改善の参考としている。 なお、2020年度は、授業がオンラインで実施されたため、授業参観を実施することができなかった。そのため、「オンライン授業について一ノウハウと課題の共有」という研修会を実施することにより代替した。 (4) 毎学期末に、すべての授業の履修学生に「授業評価アンケート」への記入を求め、授業担当教員が閲読・関与しない形で学生部が匿名のデータとして集計し、keio.jpを通じて、授業担当教員がこれに意見（予想通りの評価、意外な評価など）を提出する。 集計された各教員のデータ、および、これに対する教員の意見は、keio.jpを通じて、教員・学生が過去に遡って閲覧することができる。 なお、学生がアンケートに記入した個別の自由意見は、担当教員のみが閲覧できることになっており、公開されていない。</p>

	<p>(5) (4) のほか、随時、学生から匿名で自由に意見を述べる「通報窓口」が設けられている（アカハラ、パワハラ、セクハラ等々の予防）。提出された意見書は、公序良俗、社会的常識に反する内容を除いて、keio.jp で公表される。</p>
<p>15_その他（大学全体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協生環境推進室「協生環境推進ウィーク」 協生環境推進室と大学FD委員会が共催し、「協生環境推進ウィーク～自尊＝他尊の社会を目指して」と題して、「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」に関連する啓発活動イベントを開催した。（期間：2021年3月1日（月）～3月20日（土・祝））。 ・GICセンターFD動画 GICセンターと大学FD委員会が共催し、2020年度秋学期FD動画を各学部・研究科の教員向けに公開した（全6回）。 ・学生総合センター研修会 学生総合センターでは、学生にかかわる様々な問題を共通の基盤で考える機会として、研修会を毎年例年3月に開催しており、教員約70名および関連部署の職員が参加対象となっている。2020年度は、2021年3月17日（水）に、コロナ禍での学生支援をテーマに、内部の教職員がプレゼンターとなって研修を行った。 ・学生相談室 学生相談室では、地区ごとに学生支援における円滑な連携構築のため、日吉主任、学部・研究科学習指導担当教員、学生総合センター担当教員、学事担当職員等との懇談会を開催している。2020年度は、日吉地区は資料配布（2020年6月10日）、矢上地区（2021年2月25日）・三田地区（2021年3月10日）はオンラインで開催した。また、学生相談室の全スタッフと学生部部長を対象に「ワンデー・スタッフミーティング」（学生相談に関連する研修）を行っている。2020年度は2021年3月15日にオンラインで開催した。 ・ハラスメント防止委員会 ハラスメント防止委員会では、学内のハラスメント対策およびハラスメントを未然に防ぐ対応として、全教職員を対象としたハラスメント防止研修資料「ハラスメントによる被害を生じさせないために」動画を、2020年12月に委員会サイト内教職員向けページにおいて公開した。

以上